

機関番号：14401

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2008 ~ 2010

課題番号：20520548

研究課題名 (和文) 「国際英語」教授法の開発と応用：

非母語話者モデルの英語教育の実践のために

研究課題名 (英文) Development and application of EIL pedagogies:

For ELT practice with non-native speaker models

研究代表者

日野 信行 (HINO NOBUYUKI)

大阪大学・大学院言語文化研究科・教授

研究者番号：80165125

研究成果の概要 (和文): 本研究代表者による「国際英語」教授法である IPTEIL の応用性を高めた。この IPTEIL の実践により、本研究期間のうちに「大阪大学共通教育賞」を 6 回受賞した。また、IPTEIL 以外の「国際英語」教授法開発への道筋を提示した。さらに、日本人の国際的な自己表現の手段としての Japanese English のモデルの試案を示した。これらの成果は、国際学会誌・国内学術誌の論文、共著書、国際学会・国内学会での発表等で公表している。

研究成果の概要 (英文): This research has brought about an improvement of the applicability of IPTEIL, a methodology for teaching English as an International Language (EIL) developed by the researcher, whose IPTEIL practice won the “Osaka University Award for Outstanding Contributions to General Education” six times during this research period. This project also showed how varieties of EIL pedagogies may be further developed. Another product of this study is a proposal on a model of Japanese English for international communication. These research results have been presented and published by the researcher both domestically and internationally.

交付決定額

(金額単位: 円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2009年度	900,000	270,000	1,170,000
2010年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・外国語教育

キーワード：国際英語、教授法、グローバル教育、メディアリテラシー教育、正統的周辺参加、非母語話者、日本式英語、モデル

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 母語話者・非母語話者の枠組を超えた国際英語 (EIL) に関する社会言語学的研究は非常に盛んになりつつあるが、一方、英語教育においては、国際英語の概念が具体的な英語教授法にどのように結びつくかは、これまで明らかでない部分が多く、国際英語の理念を支持する英語教育者でさえも、実践において

は従来の母語話者モデルの英語授業に終始する傾向がある。

(2) 上記のような状況の下、日本人が国際コミュニケーションにおいて十分な自己表現を行う能力を身につけるためには、国際英語の具体的な教授法を示す必要がある。

(3) また(2)を達成するための重要な要素として、積極的な意味における Japanese English のモデルを提示することが必要である。

## 2. 研究の目的

(1) 「国際英語」教授法を具体的に提示する。これにおいて、教材論の側面だけでなく、Approach・Method・Technique のすべてのレベルに関して考察する。

(2) さらなる「国際英語」教授法の開発のための道筋を具体的に示す。

(3) 「国際英語」教授法の実践の前提として、国際コミュニケーションにおける理解度 (intelligibility, comprehensibility, interpretability) を確保しながら日本的価値観を表現できる Japanese English のモデルの試論を示す。

## 3. 研究の方法

(1) 本研究代表者が「国際英語」教育の意図のもとに勤務校において実践する教授法 IPTEIL (Integrated Practice in Teaching English as an International Language) について、Reflective Teaching の手法を適用する。具体的には、受講生・授業観察者・TAからのフィードバック等をもとにさまざまな面での省察を行い、教授法の向上と精緻化をはかる。

(2) IPTEIL に賛同する英語教員の授業 (大学及び高等学校) を観察し、インタビュー等も経て、IPTEIL の応用可能性について考察する。

(3) IPTEIL に限らず、国際英語の要素を有すると考えられる授業 (大学に限らず小学校等までも含め) を観察することにより、文献研究等と併せて、「国際英語」教授法のパターンと重要要素を抽出し、今後のさらなる「国際英語」教授法の開発のための具体的な指針について検討する。

(4) 1970年代の古典的な EIL 研究から今日の ELF 研究に至る国際英語の理解度の研究、日本人英語使用者により蓄積された英語使用経験、教育実践における省察等から得られる知見の統合により、国際コミュニケーションにおける理解度 (intelligibility, comprehensibility, interpretability) を確保しながら日本的価値観を表現できる Japanese English のモデルを提示する。

## 4. 研究成果

(1) 本研究で開発・応用した「国際英語」教

授法である IPTEIL の本研究代表者による授業実践に関し、研究期間中のすべての学期について、「大阪大学共通教育賞」を受賞した (2008 年度前期・後期、2009 年度前期・後期、2010 年度前期・後期の合計 6 回連続受賞)。

(2) きわめて高い権威を有する国際学会誌 *AILA Review* 22 (2009 年) に発表した論文 *The Teaching of English as an International Language in Japan: An answer to the dilemma of indigenous values and global needs in the Expanding Circle* が、*Annual Report of Osaka University, Academic Achievement 2009-2010* の 100 Papers Selection に選出された。本論文では、日本の社会言語学的背景に照らし、日本における「国際英語」教育の意義を考察するとともに、IPTEIL をはじめとする具体的な「国際英語」教授法について論じた。

(3) IAWE2010 年年次大会 (カナダ) で行なった発表に加筆補正することにより Japanese English の音韻・文法・語彙・談話規則・社会言語的規則等のモデルの構築に向けての試案についての章 (Endonormative models of EIL for the Expanding Circle) を執筆し、加えて IPTEIL の実践報告及びその分析についての章 (Participating in the community of EIL users through real-time news: Integrated Practice in Teaching English as an International Language [IPTEIL]) を執筆した単行本が Matsuda, A. (Ed.) *Teaching English as an International Language: Principles and practices* として、国際的な学術出版社である英国の Multilingual Matters 社より出版予定である。

(4) The 1<sup>st</sup> Macao International Forum (2010 年、マカオ) における招待講演に加筆補正した論文 (Negotiating indigenous values with Anglo-American cultures in ELT in Japan: A case of EIL philosophy in the Expanding Circle) が、「国際英語」研究の世界的権威である Andy Kirkpatrick 教授の編集による *English as an International Language in Asia* という単行本に収録され、国際的な学術出版社であるドイツの Springer 社から出版予定である。本論文では、国際英語の視点から、日本の英語教育における教授法・教材・モデルの「日本化」の意義について論じた。

(5) 国際英語としての Japanese English のモデルの構築のためにはポストコロニアル英語を対象とする従来の World Englishes 論の枠組を脱して EIL 論のパラダイムを再構成

する必要があることを論じた論文 (WE in the Expanding Circle need our own models too!: Quest for equality in World Englishes)を、IAWE2008 年年次大会 (香港) で発表し、加筆補正したものを大阪大学の出版物『英語教育の新しい理論と実践』(2009年)に発表した。本論文はさらに、日本と同じく Expanding Circle としての英語教育環境を共有するロシアの学術誌に、ロシア語に翻訳された上で掲載されるという企画が進行中である。

(6) IPTEIL の実践も含め、現在行われている「国際英語」教授法を分類するための類型を提案するとともに、それに基づきさらなる「国際英語」教授法の開発の方途について考察した論文 (EIL in teaching practice: A pedagogical analysis of EIL classrooms in action)を、IAWE2009 年年次大会 (フィリピン) で発表し、加筆補正したものを大阪大学の出版物『言語文化教育の新たな理論と実践』(2010年)に発表した。本論文についても、日本と同じく Expanding Circle としての英語教育環境を共有するロシアの学術誌に、ロシア語に翻訳された上で掲載されるという企画が進行中である。

(7) 日本における「国際英語」教授法の文化的要因及び具体的な教授技術に関する本研究の成果は、大学英語教育学会 50 周年を記念して刊行された塩澤正・吉川寛・石川有香 (編)『英語教育と文化：異文化間コミュニケーション能力の養成』(大修館書店)において本研究代表者が執筆した「日本人が英語を学ぶこと」「グローバルな英語能力とは」「英語ユーザーの現実世界への参加 国際英語の統合的実践 (IPTEIL): リアルタイムのニュースを通して」の3節に反映された。

(8) 本研究で開発・応用した「国際英語」教授法について特にメディアリテラシー教育の視点から考察した論文(「国際英語」におけるメディアリテラシー教育の実践)が、佐藤慎司・熊谷由理 (編)『言語教育における異文化コミュニケーション能力再考』(ココ出版)に収録されて出版予定である。

(9) 「国際英語」教育のためのパラダイムとして、World Englishes(WE)、English as an International Language (EIL)、English as a Lingua Franca (ELF)の三者を比較対照し、特に日本の「国際英語」教育のためのモデルの視点から ELF の今後の発展の可能性について論じた論文(WE・EIL・ELF: 国際英語論における三種のパラダイムの比較)が、2011年5月に大阪大学の出版物『新しい英語教育の方向性』に発表予定である。

5. 主な発表論文等  
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計3件)

日野信行、国際英語としての Japanese English のモデルの構築、英語展望、査読無(招待執筆) 118号、(2010)、37-42.

HINO Nobuyuki, The teaching of English as an International Language in Japan: An answer to the dilemma of indigenous values and global needs in the Expanding Circle, *AILA Review*, 22, 査読有, (2009), 103-119.

日野信行、CALL 教室を活用した「国際英語」教育、サイバーメディアフォーラム(大阪大学)、査読無(招待執筆) 10号、(2009)、23-29.

[学会発表](計9件)

HINO Nobuyuki, Integrated Practice in Teaching English as an International Language (IPTEIL) for university EFL classrooms in Japan, The 45<sup>th</sup> TESOL Annual Convention, 2011.3.17, Hilton New Orleans Riverside Hotel, U.S.A.

日野信行、「国際英語」教育におけるコミュニケーション能力の養成、「伝達・運用能力を考える」ラウンドテーブル、2011.2.20、愛知大学豊橋キャンパス.

HINO Nobuyuki, Negotiating indigenous values with Anglo-American cultures in ELT in Japan: A case of EIL philosophy in the Expanding Circle, The 1<sup>st</sup> Macao International Forum, 2010.12.4, Macao Polytechnic Institute, Macau SAR, China.

HINO Nobuyuki, Endonormative target models for the Expanding Circle, Panel *Teaching English as an International Language*, The 16<sup>th</sup> Annual Conference of the International Association for World Englishes (IAWE), 2010.7.25, Morris J. Wosk Centre for Dialogue, Simon Fraser University, Canada.

HINO Nobuyuki, Toward a Model of Japanese English, Symposium *The Possibility of Japanese English*, 日本「アジア英語」学会第26回全国大会, 2010.7.3, 神戸芸術工科大学.

日野信行、「国際英語」の概念に基づく英

語教育、シンポジウム「英語教育を学際的視野からとらえる：認知・心理・社会言語学からのアプローチ」、2009 年度大学英語教育学会関西支部秋季大会、2009.11.28、近畿大学。

HINO Nobuyuki, Teaching EIL in Japan: Its principles and practice, Special panel *Teaching World Englishes in Japan*, The 35<sup>th</sup> JALT International Conference on Language Teaching and Learning, 2009.11.22, Granship(Shizuoka Convention & Arts Center).

HINO Nobuyuki, EIL in teaching practice: A pedagogical analysis of EIL classrooms in action, The 15<sup>th</sup> Annual Conference of the International Association for World Englishes (IAWE), 2009.10.22, Cebu Parklane International Hotel, Philippines.

HINO Nobuyuki, WE in the Expanding Circle need our own models too!: Quest for equality in World Englishes, The 14<sup>th</sup> Annual Conference of the International Association for World Englishes (IAWE), 2008.12.3, City University of Hong Kong, Hong Kong SAR, China.

〔図書〕(計6件)

HINO Nobuyuki, Springer, "Negotiating indigenous values with Anglo-American cultures in ELT in Japan: A case of EIL philosophy in the Expanding Circle" Kirkpatrick, A. (Ed.) *English as an international language in Asia*, (掲載決定済, 編集集中), 掲載ページ未定.

HINO Nobuyuki, Multilingual Matters, "Endonormative models of EIL for the Expanding Circle" "Participating in the community of EIL users through real-time news: Integrated Practice in Teaching English as an International Language(IPTEIL)" Matsuda, A. (Ed.) *Teaching English as an International Language: Principles and Practices*, (掲載決定済, 編集集中), 掲載ページ未定.

日野信行、大阪大学大学院言語文化研究科、「WE・EIL・ELF：国際英語論における三種のパラダイムの比較」『新しい英語教育の方向性』(言語文化共同研究プロジェクト2010) (印刷中)、1-10.

日野信行、大修館書店、「日本人が英語を学ぶこと」「グローバルな英語能力とは」「英

語ユーザーの現実世界への参加 国際英語の統合的実践(IPTEIL): リアルタイムのニュースを通して」塩澤正・吉川寛・石川有香(編)『英語教育と文化：異文化間コミュニケーション能力の養成』、(2010)、182-188,188-192 & 232-234.

HINO Nobuyuki、大阪大学大学院言語文化研究科、「EIL in teaching practice: A pedagogical analysis of EIL classrooms in action」『言語文化教育の新たな理論と実践』(言語文化共同研究プロジェクト2009) (2010)、1-10.

HINO Nobuyuki、大阪大学大学院言語文化研究科、「WE in the Expanding Circle need our own models too!: Quest for equality in World Englishes」『英語教育の新しい理論と実践』(言語文化共同研究プロジェクト2008) (2009)、1-10.

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

日野 信行 (HINO NOBUYUKI)  
大阪大学・大学院言語文化研究科・教授  
研究者番号：80165125

### (2) 研究分担者

なし

### (3) 連携研究者

なし

### (4) 研究協力者

Smith, Larry E.  
President, Christopher Smith & Associates, U.S.A.

藤原康弘  
愛知教育大学・教育学部・講師

和田園子  
大阪府立鳳高等学校・教諭